

計画数値との比較における要因分析まとめ

【障害福祉サービス】

居宅介護	介護保険への移行が影響したと考えられる。
同行援護	計画相談の効果により、サービス内容の周知が図れたため、利用につながった。
行動援護	ニーズが少ないが、平成28年度には1人利用が予定されている。
就労移行支援	事業所の増加に伴い、宣伝周知されたことにより増加したと見られる。
就労継続支援A型	最低賃金で雇用契約が必要となるため、採算が合わず事業所が増えない。また、B型へ移行した事業所がある上、B型に流れるケースもあった。
就労継続支援B型	事業所が多いため、利用につながりやすい。また、就労移行支援やA型からつながるケースが多い。
短期入所	ニーズは高いが、今すぐには必要ではないため、緊急対応のために支給決定している状況が見受けられる。また、ショートステイはいつでも予約がたっぷりのイメージであり、積極的に利用されない。さらに、地域の通所施設に通うためには地域で入所しなければ通えないが、地域にないため通所を考えると利用できない。
放課後等デイサービス	事業所が町内にオープンしたことに伴い実績が増えた。さらに、平成28年8月より新たな事業所がオープンし、今後も伸びていくと見込んでいる。

【地域生活支援事業】

移動支援	放課後等デイサービスの事業所が町内にオープンしたことに伴い、移動支援から移行したと考えられる。
------	---